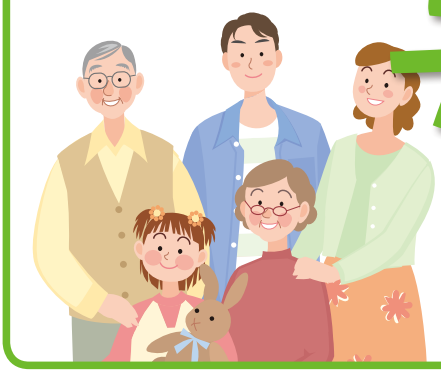


笑顔のひろば

vol. 44
2019年　新年度号
川崎協同病院
広報誌
http://www.kawasaki-kyodo.jp

―新たな年度を迎えて―

環境・設備面での改善を

４月１日から整形外科の外来が、協同ふじさきクリニックから川崎協同病院に移りました。これによって限られた医師数の中で、整形外科の救急を受け入れしやすくなり、骨折など重症な疾患の際にも安心して受診してもらえるようになります。

川崎協同病院の建物は建築後 20 年余りが経過しました。内装の補修や設備の改善をしなくていけないところもでてきています。今年度はこうした環境面や設備面での改善を進めていきたいと考えています。

また医療生協の一員として、健康づくりを推進する中核病院となれるように、健康増進活動拠点病院（HPH）を目指して、活動の幅を広げていくつもりです。地域・組合員のみなさんと一緒に進めていきます。

川崎協同病院 院長　田中 久善

整形外科外来がふじさきクリニックから協同病院へ　**Start Now**

緊急の入院や手術に対応、効率もアップ

川崎協同病院の整形外科の外来は、これまで近くの協同ふじさきクリニックの中に置かれていましたが、４月から川崎協同病院へ移りました。 これによって、これまで入院が必要な場合や CT や MRI の撮影時には、協同ふじさきクリニックから川崎協同病院へ移動しなくてはならなかったのが、その必要がなくなりました。

川崎協同病院内に新設された整形外科の診察室は、外科診察室、リハビリテーション室の並びに位置しています。整形外科で外来リハビリテーションを受ける患者さんのリハビリテーション前の診察もここで行います。

診察室からすぐ近くにエレベーターがあるので、２階にある CT・MRI・レントゲン室への移動もスムーズです。何よりのメリットは、これまで整形外科にかかった患者さんが緊急入院や緊急手術が必要になったとき、すぐに対応できることです。

また、救急対応も変わりました。協同ふじさきクリニックで外来診療をしていたときは、その日の救急当番医が対応できる疾患や状況によって、救急車を受け入れることができなかったり、救急診療ができなかったりしました。

中庭からの光が差し込む明るい受付

４月からは救急当番医以外の医師と外来診療中の整形外科医が協力して対応できるようになり、より多くの救急患者を受け入れられるようになりました。

整形外科外来の診察時間と担当医

	受付時間	診察時間
午前	07：45 ～ 11：30	09：00 ～
午後	12：30 ～ 16：30	14：00 ～

	月	火	水	木	金	土
午前	松井 高橋 小見渕 10：00～	戸口 松井	戸口 豊永 堀内 （第１・３・５）	原 松井 戸口	堀内 高橋	交替制
午後	原	—	—	—	堀内 （第２ﾘｳﾏﾁ）	—

New Face

新職員 32 人がデイサービスなどを見学

地域や医療生協への理解を深める

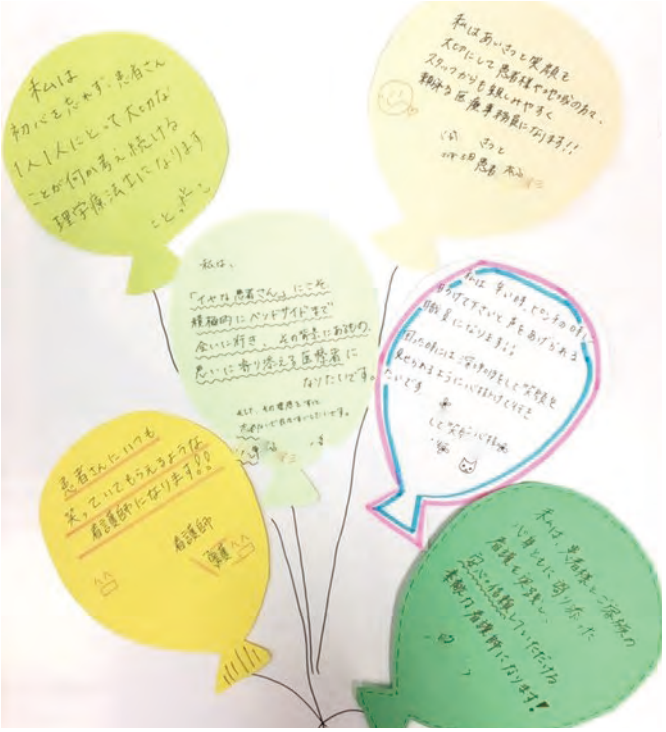
デイケアで少し緊張しながらも利用者と笑顔で交流する新職員

川崎協同病院は、2019 年度 32 人の新職員を迎えました。初期研修医 3 人、薬剤師 1 人、看護師 18 人、PT4 人、OT1 人、臨床検査技師 1 人、SW1 人、事務 3 人と例年になく多様な職種にわたっています。

新職員は、例年通り川崎協同病院が所属する川崎医療生活協同組合（川医協）が行う全体研修を受けますが、今年度は、「川医協の歴史」「ビジネスマナー」「感染・安全」などについて学んだほか、初めて法人の介護事業所を見学しました。

川医協の介護事業所にはデイケア・デイサービスが 3 つあります。新職員が訪れると利用者からは「協同病院はとてもいい病院よ」と声がかかりました。ほとんどの新職員は病院に配属されるため、患者さんが暮らす地域や施設を見る機会はなかなかありません。介護事業所に足を運んだことで、その事業所を支える組合員や利用者がいることを知るいい機会になりました。

研修の最後には、32 人の職員全員が「私は〇〇な職員になります！」という宣言を書きました。



「私は〇〇な職員になります！」と書かれた宣言

「地域連携室」が「患者サポートセンター」に

Start Now

３つの役割をわかりやすく外部に示す

川崎協同病院は 10 年前に近隣のクリニック・病院、介護事業所との連携窓口として「地域連携室」という部署を設けました。時代とともに、地域連携室は医療・介護の連携だけでなく、相談機能や入院退院に関わる様々なことに対応してきました。

そうした機能をよりわかりやすく患者、地域の医療機関・介護事業所へ伝えるために、このほど「患者サポートセンター」に名称を変更し、内部に「入退院支援課」「相談課」「地域連携課」の3つを設けました。これまで同様に、看護師、相談員（SW）、事務職の3つの職種が同じで場所で協力することで連携して対応していきます。

「入退院支援課」は、看護師を中心とし、開業医からの救急受診・入院相談の窓口になります。また、退院支援も行い、相談員（SW）と協力して医療依存度が高い人の退院支援を行います。

「相談課」は、相談員（SW）７人が、退院に向けた医療・介護のサービス調整など様々な問題の解決にあたります。他の医療機関から、回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟への転院相談の窓口の役割も担います。

総合受付の横から患者サポートセンターへ

「地域連携課」は、入退院に関わる各種統計などの業務を担いながら、他の医療機関から診療情報の提供の依頼があった時の対応や入退院に関わる看護師や相談員（SW）の仕事をサポートします。また、外来透析の患者や特定医療短期入所の利用者、短期入院する人たちのための無料送迎車の運行管理を行っています。３職種が１つの部屋で連携し、より良い対応を目指します。

TOPICS

トピックス

今年も大盛況！協同地域健康まつり

「地域まるごと健康」を掲げ地域と一体となって健康づくりを進めていくイベントとして毎年開催されている「協同地域健康まつり」が４月 21 日に開催されました。今年で７回目となった今回は、日曜日に病院近くの藤崎第４公園で行われ、700 を超える人が訪れ大盛況でした。

この日は朝から快晴で、気温も 20 度を超え汗ばむほどの陽気でした。特設ステージでは毎年恒例の輪踊り、和太鼓、フラダンスだけでなく、今年からキッズダンスも加わり来場者の目を惹きつけました。客席には強い日差しを避けるテントも張られ、ステージ前は常ににぎわっていました。

地元の子どもたちが盛り上げるステージ

模擬店は職員だけでなく、組合員や地域で活動している人たちも出店し、定番の焼きそばやフランクフルトをはじめサーターアンダギー、わかめ・こんぶの販売まで多種多様な模擬店が、会場をにぎわせました。

研修医３人も率先して参加

４月に入った研修医の３人は、まつりの司会進行を交代でつとめ、初めてとは思えないような堂々とした司会ぶり。また、研修医が出店したスーパーボールすくいの模擬店は大人気で、子どもたちが引っ切りなしに訪れていました。

司会で活躍する３人の研修医
左から吉野裕美医師、白井恭吾医師、山本結医師

参加した研修医からは「地域のみなさんと共にこのお祭りを作る中で、組合員さんや地域の方々と一緒に医療を実践して行くことを実感することができました」、「病院で患者さんを待つだけでなく、地域の中に出て触れ合うことで、みなさんの健康を自分たちが支えていくのだと改めて意識できました」という感想がありました。

患者サポートセンターの

おじゃまします！

病院は地域との連携が何より大切。近隣の医療、福祉関係の施設や機関を訪問し、紹介していきます。
第 19 回は「ほっとカフェテリアパン工房 andante」です。
（取材：患者サポートセンター　高橋靖明・仲亀真央）

誇れるパン屋を目指して ～幻の名物はパンデココ～

「ほっとカフェテリアパン工房 andante（アンダンテ）」は、当院すぐ近くの桜本商店街の中にあります。２０１２年に障がいのある人の社会参加を目指し、「地域活動支援センター」として川崎区内で始めたパン工房を、現在の場所に移転、装いも新たにし５月１日にオープンしました。

木目を基調とした温かみのある外装で、店内にたくさんパンが並べられているのが通りからもた見え、思わず入りたくなります。オープン間もないため、店内にはお祝いの花などが飾られていて、とても明るい雰囲気です。

「地域活動支援センター」は、障がい者の日中活動・社会参加の場として、生産したり創作したりします。センターによって活動内容はさまざまです。

「andante」に登録している利用者（障がい者）は７人で、一日平均約４人が活動しています。多い人では週６日参加する人もいます。職員は、常勤が２人にパート３人が交代で勤務しています。

おもな活動は、パンをつくって販売することです。時には地域のお祭りやイベントでの出張販売も行います。営業時間は 10 時から午後５時ですが、準備や後片付けもあり利用者は９時から午後５時半まで作業をしています。

当初は、あらかじめできた冷凍の生地を焼いて販売しようと考えていましたが、せっかく窯があるので一からつくろうということになり、専門家に指導してもらいみんなでつくれるようになりました。

焼きあがったばかりのパンが並ぶ

地域活動支援センターとは

障がい者などを対象として、地域の実情に応じ、創作活動や生産活動の機会を提供、社会との交流の促進などのサービスを提供する通所施設。事業形態により、住民に対するボランティアの育成や就労のための社会適応訓練などを行っているところもある。（WAMNET より引用）

ほっとカフェテリアパン工房 andante

通りからも店内のパンが見える

パンはしっかり生地からつくる

できるだけみんなでつくることを大切にしています。手が不自由でも、道具を使うなど工夫して、時間をかけて生地をこねています。コミュニケーションが苦手で作業工程をうまく理解できないときは、かける言葉を工夫したり、何がよくなかったかをその場で職員と利用者みんなで一緒に考えて改善するといったチームワークを大切にしています。

名物は「パンデココ」というフィリピンではよく知られているパンで、ココナッツのジャムが入っています。ただし販売は不定期で「幻の名物？」となっています。

パンの他にフィリピンやペルーの食品も販売しています。多文化を持つ外国の人たちの生活を支援することを目的にはじめたものですが、販売を通して障がい者が働くこうした施設（同センター）への理解が広がり、また、障がいのある家族がいる外国の人が、こうした施設が日本にあることを初めて知り、家族の障がいのことで相談できるようにもなりました。今はこのつながりを大切にしています。

現在、地域の身近なコミュニティの場として、店内にカフェを新たに準備中です。利用者はみんなパンを作り売るのが大好きなので、お客さんに喜んでもらえるように種類を増やし、よりおいしいパンをつくり誇れるパン屋を目指しているそうです。

●川崎協同病院へひとこと・・・

色々お世話になっています。お近くなのでぜひパンを買いに立ち寄ってください。

●おじゃまして・・・

帰りに買って帰った“あんぱん”はとってもやさしい味がしました。

笑顔のひろば
vol.44 新年度号
発行：2019 年 5 月 31 日　川崎協同病院 患者サポートセンター
川崎市川崎区桜本 2-1-5　TEL:044-299-4781（代）　FAX:044-299-4788　http://www.kawasaki-kyodo.jp